

## かまくらささえあい福祉プラン 玉縄地区懇談会 議事録

日 時 平成 30 年 1 月 31 日(水) 10 時 00 分～11 時 55 分  
会 場 玉縄学習センター 第 1 集会室  
出席者 玉縄地区 13 名 玉縄支所 1 名 マイタウン玉縄取材 1 名  
推進等委員 川上委員長 谷本副委員長 国分委員 西崎委員 古江委員  
事務局 市社協 相川常務 内藤局長 山本主幹 堀井

事務局より懇談会の趣旨説明後、玉縄地区社協小川会長より挨拶

### 議事概要

#### 議題

- (1) 講演 地域共生社会づくりに向けて  
資料に基づき講演 (川上先生)

#### 議題

- (2) 意見交換

#### 【発言概要】

- ・地域の安定や交流がない中で人の入れ替わりが激しく、大きい家が細分化されてきて核家族化してきており、その中で高齢者が孤立してきているのが活動している中で一番気になる。
- ・玉縄地区社協は自町連と民生委員を中心に様々な方たちが加盟しているが、任期が非常に短く、特に町内会長は 1 年交代の町内会も多くあり、継続性が難しくなっている。その為、生活支援コーディネーターが行政地区に配置され、その方に聞けば大体その地域の事が分かる様になったらとてもありがたい。
- ・若い方のボランティアが少ない
- ・会食会に来れない方に絵手紙を 15 年くらい前から送っている。高齢になると手紙などが少なくなるため、その 1 枚の絵手紙がその方たちの生きる糧になっている。その様な小さな事でも継続してやっていくことは大切だと思う。
- ・活動される方の趣旨と地域のニーズがマッチングしていないことがある。その為、そのニーズを的確に捉えて情報を共有していくことが大切だと思う。
- ・組長も高齢になってきて段々と動けなくなっている。一番の心配事は地震が起きた場合、話し合っているが無理だよねとの話で終わっている。公会堂の中に水と食料は保管し始めた。
- ・新興住宅地は割と若い方たちが多いため、皆で考えながら進んできている。しかし一人暮らしも多くなり、最終的には施設に入所され空き家が増え始めてきている。
- ・ボランティアをお願いしたいと積極的に言う方と、そうでない方がいる。ボランティアに従事している方が不足してきている。特に男性。必要とされるニーズが男性を望んでいるケースも増えている。
- ・関心の薄い地域である (城廻、関谷) 農業を代々やっている世帯が多く、福祉に関して何をしたいか分からない。認知症についてなどの講演を始めたが参加してくれる人が少ない。関心の薄

さを実感している。

- ・ ささえあいの輪を作っていくことに重要性を感じているが、なかなか出来ないのが課題である。
- ・ 今年の4月は介護保険、医療保険の同時改正になる。この改定ではサービスのカットや縮小がされるのではないかと。地域に沢山ある課題に対応するのは体力的にも資金的にも無理がある。その為、優先順位をつけてやっていかなければ出来ないと思う。民生委員児童委員も児童委員の動きも取り込んでいこうとなってきたので、子どもの問題を優先順位の中に入れていけなければならないのではないかと。
- ・ 自分の両親が地域の方に非常にお世話になった。その為、自分も定年後地域に恩返ししたかった。自分も含めた団塊の世代の方々が色々と頑張っていかなければいけない。地域に感謝する気持ちが大切だと思う。あと悪い事ばかりに目を向けずに、いいところに目を向けることも大切。
- ・ 青少年指導委員も高齢化してきていて、若い方を取り込んでいかなければいけないが60代でも仕事を持っている方が多い。その為、ボランティアをやろうとしても平日のボランティアは出来ない。特に行政と一緒にやる場合は、平日が多いため難しい。
- ・ 200世帯住んでいるマンションで古いため半分以上の世帯は60歳以上になる。15年くらい前に親睦会や見守りの会を作ったが、なかなか参加をしてくれなかった。参加してくれればその方の状況もみえてくる。オープンカフェを始めたが男性の参加はなかった。これからも続けていき新しい方、特に男性に参加をしてほしい。
- ・ 今活動している方たちは高齢化してきている。新たな担い手を探していかなければいけないが、60代の方たちは仕事をしている人が多い。担い手不足をどの様に解消していけばいいか。
- ・ 地域福祉コーディネーターは色々な事をやらなければならないので、最低でも3年は同じ人がやらなければならないのではないかと。
- ・ 国は60代の方に働いてほしい。そうするとボランティアはいなくなってしまうのではないかと。
- ・ ボランティアセンターでは月から金の午前中10名待機して、地域の方々の困った事などの電話がかかってくる。対応できるボランティアが20名程度いるので、割り振って二人一組で活動をしている。最近思うことはボランティアをお願いする方が決まってきた。もっと沢山の方が必要としていると思う。
- ・ 行政のかかわり方によって地域の状態が違ってくると思う。カフェ玉縄などは支所が非常に強力的で地域の中に自分たちも入っていくとの心持でいてくれる。地域が一生懸命やっているときに行政のバックアップがいかに大事かとのことを痛切に感じている。市役所も縦割りではなく柔軟に対応していく体制を作してほしい。社協も
- ・ 社協も地域に出向くことによって色々なことが見えてくるはずだが、ここ何年間かは殆どなかった。社協は専門職なので協力を仰ぎたい。  
⇒理事としては、体制を整えるのにもう暫く時間を頂きたい。今までよりはいい形にはなりません。
- ・ 60歳を過ぎても働かなければならない人が増えている中で、平日の昼間の活動を求めていくと、ボランティアや町内の役員などは裕福な人しか出来ないのかとの話にもなってくる。
- ・ 地域には60代、70代で家にいる方は沢山いる。その様な人たちに日頃から声を掛けることが必要。
- ・ 男性はコミュニケーション能力が低いのでふれあいサロンの様な場所でもなかなか居場所がないと思われる。その為、何か役割を与えられた方が気楽ではないかと。

- ・カフェをやった際に、男性の方から目的が何かなど、どんな仕事が必要なんだろうかなど聞かれる。何でもいいから取りあえずやってみようではなく、きちんと役割が決まっていなくて出来ない様子だった。
- ・玉縄の場合は地区社協の役員も民生委員も男性が多くなってきている。
- ・玉縄台や城廻など高台の方ではボランティアセンターに買い物の依頼が入ったことがある。大手のスーパーでは宅配もやっているしネットショップもあるのでそれほどニーズはない。
- ・一人暮らしの方は精神的に不安なこと以外困りごとはないと思う。
- ・ボランティアセンターに相談に来る方には親子の中で断絶していて、娘には言いたくないなどの相談がある。家族間でのコミュニケーションが取れていない事を感じることもある。(同居、別居共に)
- ・同居している場合でも子どもがゆっくりと話を聞いてもらえないため関係性が悪くなっている場合もある。病院に行くにも連れて行ってもらえない。
- ・話を聞くだけでも落ち着かれるケースも多いと思われる。
- ・ボランティアは明るくわくわく楽しみながらやらないと、自分自身もつまらないし受ける側も嫌だと思われる。

川上先生

今日の懇談会では社協への要望、地域で活動をするに当たっての様々な課題などを聞かせてもらい非常に貴重な場になった。この話をどの様な形で計画に反映できるか策定委員会で揉んでいきたいと思えます。

以上